

フィリピンのメディア企業最前線 取材先概要

今回、フィリピンの主要メディア企業であるABS-CBN、GMA Network、VIVA、PROBE Productions、RAPPLER、VERA Files、加えて日本のインバウンド施策を推進する日本政府観光局(JNTO)を訪問し、フィリピンにおける放送・デジタルメディアの現状と課題、日本の放送局との協業の可能性について取材しました。テレビ放送を基盤とする大手ネットワークから、デジタルベースの報道機関までを横断的にヒアリングすることで、フィリピンメディアの実情を多角的にお伝えします。

今回の取材先の概要は次の通りです。

TOPICS

ABS-CBN ～放送停止後もデジタルシフトで奮闘する老舗のコンテンツ企業～

ABS-CBNは、1946年に設立され、「コンテンツ制作・配信」と「ケーブル・ブロードバンド」の2セグメントで事業が構成されています。エンターテインメント、ニュース、時事番組の制作・配信、映画や音楽制作、ケーブルチャンネル運営、デジタルコンテンツ配信などを手掛ける総合メディア企業です。2016年の大統領選をめぐるCM問題を受け、2020年に地上波の放送免許更新が認められず停波。1万人以上いた従業員は人員整理などにより、現在は約2,600人となっています。停波により失った収益源をカバーするべく、ケーブル・衛星

放送の運営やオリジナル動画配信サービス「iWant TFC」、YouTubeでのニュース番組の配信などに注力しています。

ニュース製作にかかわるフランシス・B・トラルさん、チ・アルマリオ・ゴンザレスさん (Chi Almario-Gonzalez)、パロイ・モルガさん (Baroy Morga)、アイリーン・グレース・J・マノトックさん (Irene Grace J. Manotok) にインタビューしました。

(インタビュー記事は、その4参照)



ABS-CBNでのインタビューの様子



ニュース製作の責任者 (Head, Integrated News & Current Affairs) フランシス・B・トラル氏 (Francis B. Toral)



ABS-CBNの皆さんとの集合写真

TOPICS

GMA Network ～国内視聴率トップを維持する総合メディア企業～

GMA Networkは1950年創業のフィリピンを代表する総合メディア企業で、全国規模の地上波テレビネットワークを中核に、ラジオ、映画、音楽、デジタル配信

など幅広い事業を展開しています。主力チャンネルである「GMA」は、ABS-CBNが停波して以降、視聴シェアを大幅に拡大していて、4割を超すシェアを獲得して

います。たとえばABS-CBNで放送され人気を博していたバラエティ番組『It's Showtime』やリアリティ番組『Pinoy Big Brother』がGMAで放送されています(制作自体は現在もABS-CBNが担っています)。



ドラマプロデューサー アーリーン・D・ピラピル氏(Arlene D. Pilapil)

【コラム】ABS-CBNとGMAの関係性

歴史的にABS-CBNとGMAは視聴率、番組編成、タレント獲得などで競い合い、明確なライバル関係にありました。しかし、現在は戦略的な協業が進んでいます。『It's Showtime』や『Pinoy Big Brother』のGMAでの放送のほかにも、たとえば、ABS-CBNのグローバ

今回、ドラマプロデューサーのアーリーン・D・ピラピルさんにインタビューしました。

(インタビュー記事は、その3参照)



GMAの皆さんとの集合写真

ル配信プラットフォーム「iWant TFC」でのGMAコンテンツの配信や、ドラマの共同制作を実施するなどしています。

両社の協業により、視聴者接点の最大化やコスト分散、制作リスクの低減などを見込むことができるものと考えられます。

TOPICS

Viva Communications, Inc ~コロナをきっかけに映画から配信ビジネスに転換~

Viva Communications, Incは、1978年により設立された総合エンターテインメント企業です。映画制作・配給を中核に、音楽制作、タレントマネジメント、テレビ番組制作、ライブイベント、デジタル配信など幅広い事業を展開していますが、コロナ禍の2020年、劇場公開を予定していた作品が上映できず、それらを公開する先として定額動画配信サービス「Vivamax」を立ち上げました。現在は「VMX」にサービス名を変更し、映

画やドラマ、オリジナル作品を中心に配信していて、登録ユーザーは2,000万人に達しています。

今回、CEOのヴァインセント・G・デル・ロサリオさんとコンテンツのライセンスを担当するカトリジア・アン・ランディチョさん(Katrizia Anne Landicho)にインタビューしました。

(インタビュー記事は、その3参照)



ヴァインセント・G・デル・ロサリオ氏(Vincent G. Del Rosario, CEO)



Viva Communication 玄関前

TOPICS

Probe ～インフルエンサーとの連携に活路を見出す独立系メディア～

Probeは独立系のメディア制作会社で、1988年に創業して以降フィリピンにおけるドキュメンタリー制作の先駆者の1つとされています。大学教授から放送ジャーナリストに転身したチェチェ・ラサロさん(Cheche Lazaro)によって設立され、『The Probe Team』、『5 and Up』などといったなどといった画期的な番組の制作を手掛けてきました。また長年にわたる制作会社としての活動の中で、1万8,000本に及ぶ膨大なアーカイブ資料をデジタル化し、一般市民、とりわけZ世代に

向けて公開しています。

今回、ビジネス開発部門の責任者であるジョセフ・カタンさんにインタビューしました。ジョセフ・カタンさんは、ボッパー・メディア(Bopper Media)というロンドンを拠点とするクリエイティブエージェンシーにおいて制作責任者も務めていて、いわば二足の草鞋を履いてフィリピンメディア業界を牽引しています。

(インタビュー記事は、その2、その4参照)



ジョセフ・カタン氏 (Joseph Cataan, Head of Growth and Business Development)



1万8,000本に及ぶ膨大なアーカイブ資料と取材団一同

TOPICS

RAPPLER ～デジタル発の独立系調査報道メディア～

RAPPLERは独立系デジタルニュースメディアで、2011年に設立、2012年にオンラインニュースサイトを立ち上げました。報道・コミュニティ・テクノロジーの3つを柱に、調査報道とリサーチを通じて偽情報に対抗して真実を伝えることを目指し、公共性の高い調査報道に注力しています。報道の独立性とデジタル技術の活用による革新的なニュース制作を特徴としていて、Meta (旧 Facebook) の公式ファクトチェックパートナーを務めたり、国際的なジャーナリズム賞を受賞したりするなど世界的に認知されています。共同創業者のマリア・レッサさん (Maria Ressa) は、フィリピン唯一のノーベル賞受賞者で、「民主主義と恒久的な平

和の前提となる表現の自由を守るための努力」に対する功績により、平和賞を受賞しています。

今回、編集責任者のミリアム・グレース・ゴーさんにインタビューしました。

(インタビュー記事は、その4参照)



ミリアム・グレース・ゴー氏 (Miriam Grace Go, Managing Editor)

TOPICS

VERA Files ～ファクトチェックを強みとする公共性重視の報道機関～

VERA Filesは非営利のオンラインニュース専門の報道機関で、フィリピンにおける虚偽情報のファクトチェ

ックにおける組織的な役割で知られています。フィリピン政府に対する批判的な報道のために脅迫や検閲の標

的にされた報道機関でもあります。RAPPLERと同様、Metaの公式ファクトチェックパートナーを務めているほか、広告収入に依存しない寄付・助成金ベースの運営体制を採り、報道の独立性と透明性を重視するメディアでもあります。VERA Filesは、ジャーナリストや学生、市民社会組織に向けて調査報道の制作に関する研



セリーヌ・イザベル・サムソン氏 (Celine Isabelle Samson, Head of online verification team) と エレン・トルデシリャス氏 (Ellen Tordesillas, Trustee and Writer)

修や指導も行っています。

ファクトチェックチームのリーダー、セリーヌ・イザベル・サムソンさん、ライターのエレン・トルデシリャスさんにインタビューしました。

(インタビュー記事は、その4参照)



VERA Filesの皆さんとの集合写真

TOPICS

JNTO ～日本のインバウンド戦略を担う政府観光機関～

日本の観光振興を目的とする独立行政法人で、国土交通省所管のもと、訪日外国人旅行者の誘致促進を主なミッションとする組織です。海外に向けたプロモーションやマーケティング調査、メディアとの連携、デジタル発信などを実施するほか、国際会議やMICE誘致支援、観光統計の分析・情報提供も行い、日本の観光産業の国際競争力向上を担う中核機関です。

今回、マニラ事務所の林伯亮所長、川村尚次長にインタビューし、フィリピンにおけるインバウンド事情に

ついて話を聞きました。

(インタビュー記事は、その2参照)



JNTO 外観



報告者：横井一輝
中京テレビ放送株式会社
メディア戦略局コンテンツ
ビジネス・ライツグループ

*本稿に掲載した記事及び写真の無断転載はご遠慮ください。